



## 黒潮の激流に囲まれた島

御蔵島は三宅島から南に18km、大型客船で50分の距離にあります。島の大きさは、かつて大島(周囲約52km)に匹敵する程でしたが、周囲が黒潮の激流に削られ、現在の大きさ(周囲約16km)になりました。削られた部分は海食崖となって島を囲み、南西部の黒崎高尾では高さが480mにもなりません。

## 多様な生物の宝庫

「神様の宝をしまっ蔵を置くために伊豆諸島でも番目に削られた島」といわれる御蔵島は、世界でも珍しい植物相を有しています。特徴は植物の垂直分布にみられ、海拔300mまでは亜熱帯または暖帯性の植物が生育していますが、海拔450m以上には温帯北部から亜寒帯の植物が生育しています。

珍しい植物相が生まれた秘密は御蔵島の海食崖にあります。

低地は黒潮の影響により暖かく、高地は海を渡る空気が崖で急上昇・膨張し山頂付近で温度が急激に下がることで、気温差が生じ2つの植物相が生まれます。

また、御蔵島の大きな特徴であるイルカ生息にも、豊かな森が関係しているといわれています。島に生息しているオオミズナギドリ等野鳥の糞と森の落ち葉が養分となり水とともに海に流れ落ちると、プランクトンの餌となります。その結果、プランクトンを求めて魚が集まるので、餌を求めるイルカも多数生息していると考えられています。こうした多様な生態系を保護するために、御蔵島ではエコツーリズムを推進しています。島の資源の観光利用を制限することによって、持続可能な観光を目指しています。



©御蔵島観光協会  
ドルフィンスイムに魅せられる人は多い。

## イルカと共存する島

御蔵島では、野生のイルカに会えるイルカウォッチング・ドルフィンスイムが人気です。毎年3月から11月のシーズンには、多くの人がイルカに会うため島を訪れます。御蔵島のイルカウォッチングは1990年代初頭から始まりました。きっかけは、ダイバー達の間でイルカと泳げる話が広まったことといわれています。イルカウォッチングの人気は一気に高まり、あちこちから船が押し寄せるイルカブームを巻き起こしました。このとき、加熱するイルカブームに危機感を持った島民有志によって御蔵島イルカ協会が結成され、生態系保護に向けた取組が始まりました。同協会は関係機関などの協力を得ながら、1994（平成6）年からイルカ個体識別調査を開始しました。また、同協会によってイルカウォッチングやドルフィンスイムのルールの基礎が作られました。現在、その役割は御蔵島観光協会に引き継がれ、人間とイルカの共生が図られています。

運が良ければイルカの大群に会えるかも。



© 御蔵島観光協会

イルカ個体識別調査の様子。



© 御蔵島観光協会



© 御蔵島観光協会

遠くから見える白滝は、昔から航海や漁の目印として利用されてきた。

### イルカの紹介本

御蔵島観光協会は、イルカ紹介本『いるかないか』を発行しています。御蔵島周辺に生息するイルカ約140頭のうち、イルカの身体についた傷やヒレの欠けを手がかりに、識別がしやすい54頭のイルカが紹介されています。また、イルカ紹介だけでなく、これまでの研究でわかった最新の知見や島ごとなども紹介されています。



### ドルフィンスイムのルール

いつまでもイルカと人間の良好な関係を保っていくため、御蔵島では独自のルールを定めています。ルールはイルカの自然な行動を妨げない、イルカを刺激しないこと等を基本に設定されています。また、ルールにはイルカの保護だけではなく、人間を守る意味も含まれています。例えば、イルカに触ることを禁じているのは、イルカとの接触によって人間に危害が加わることを避けるためでもあります。

さらに、ウォッチング船のスクリーンに巻き込まれる等の事故を防ぐためにも、ツアー中はスタッフの指示に従う必要があります。

ドルフィンスイムのルールは御蔵島観光協会のホームページ等に掲載されており、参加者への意識啓発が図られています。



## 海に浮かぶ森

御蔵島の原生林は、全国有数の巨樹・巨木の群生地。



長滝山山頂付近からはつぶねが森、御代ヶ池がよく見えます。

御蔵島は、火山島でありながら数千年にわたり噴火が起きていません。このため、全島がタブノキやホルトノキ等を中心とする常緑広葉樹で覆われています。特に、スタジイは御蔵島の森を構成する代表的な常緑広葉樹であり、南郷地区には幹周約14mの南郷のオオジイと呼ばれる巨樹があります。森の中では、オオミズナギドリの巣穴をみることもできます。また、深い森はミクラミヤマクワガタやミクラクロヒカゲなど希少な昆虫の住みかにもなっています。その他、シヨウジョウバカマなど高山植物が観察できることも御蔵島の森の大きな特徴のひとつです。島の花になっているニオイエビネランは、乱獲によって野生種の絶滅が危惧されています。現在はいえびね公園で保護されており、自然の森の中でニオイエビネランが咲く様子が再現されています。これら希少生物の宝庫である御蔵の森を守るため、動植物の持ち出し、持ち込みは禁止されています。



© 御蔵島観光協会

ミクラミヤマクワガタ



© 御蔵島観光協会

ミクラクロヒカゲ



© 御蔵島観光協会

シヨウジョウバカマ

### 島の作法 くままつ 草祀り神様

御蔵島には草祀り神様といわれる小さな祠が2カ所あります。入山する人は、辺りにある草を摘み、上から石を置いて神様にこれから山へ入ることを伝え、下山時には草を取り無事に下山できた感謝を伝えます。かつては「草が残っている＝誰か山に残っている」となり、探しに行く目安となっていました。



トレッキングコースは半日・1日コース合わせて10余り設けられており、自然保護のため、ほとんどのコースで東京都認定ガイド資格を持ったガイドの同行が必須です。ガイド1名あたりの案内可能人数は7名まで、予約はガイド個人への直接予約のほか、観光案内所でも受け付けています。

### 御蔵島エコツアーリズム





## 島の守り神・稲根神社の例大祭

集落の最も高い位置にある稲根神社には、島の神様が祀られています。集落にあるのは拝殿で、本殿は島南側の稲ヶ森にあります。

8月の第1土・日曜日の例大祭は島一番の祭りです。期間中は村総出でお祭りの準備をするため、宿やイルカウォッチングなどを休業することが多いです。日曜日の神輿巡行では、拝殿を出発した神輿が1日かけて里の中を廻ります。担ぐ神輿が荒々しければ荒々しいほど、豊漁・豊作と言い伝えられています。

## 御蔵の源水

御蔵島は、雨水を繋ぎ止める役割の中央部の深い森によって、島全体が水がめのようになっています。このため、御蔵島は伊豆諸島の中で最も水が豊富な島といわれています。蓄えられた水は地中を奥深く流れ、海食崖の中腹から流れ出ていきます。島を海から見ると、滝が流れ出ている様子が何カ所も観察できます。山の湧水は「御蔵の源水」として販売されており、豊かな森が育んだ水は通常の2倍のミネラルを含み、まろやかで優しい味がします。



## 御蔵島観光資料館



御蔵島観光資料館の1階には郷土資料館、2階には観光資料展示コーナーや観光案内所（御蔵島観光協会）があります。郷土資料館では、島の歴史や暮らしなど、御蔵島の変遷を知ることができます。また、御蔵島と三宅島の江戸時代の関係にまつわる話や、バイキング号事件が島の住民に与えた影響など歴史の逸話も紹介されています。観光資料展示コーナーでは、希少性の高い御蔵島の海と山の自然環境について詳しく知ることができます。



## バイキング号記念碑



1863（文久3）年、御蔵島の大根ヶ浜付近に米国商船バイキング号が座礁する事件が起こりました。当時の日本は鎖国状態でしたが、勇気ある島民は漂流者を懸命に救助し、その結果500名近くの命を救うことができました。その後、事件のことは島の伝承から消えかけていましたが、1960（昭和35）年に植物学者・高橋基生博士が興味を持ったことから再び注目が集まりました。そして事件後100年を記念し、漂流者の子孫達が御蔵島とアメリカの双方に、感謝と友好の気持ちを込めて建立したのがバイキング号記念碑です。



©御蔵島観光協会

御蔵島は世界有数のオオミズナギドリ繁殖地。近年は野生化したネコにより激減している。



海食崖の高さは480m。展望台まではガイドなしでも行ける。

### 島内アクセス

レンタカーなし

※島内は自転車禁止されています。

### 島の窓口



#### 御蔵島観光協会

〒100-1301  
東京都御蔵島村おうし屋敷



#### 御蔵島村産業課

〒100-1301  
東京都御蔵島村字入かねが沢



数千年前の噴火の際に、川が堰き止められて生まれたとされる堰止め湖。新東京百景に選ばれている。



©御蔵島観光協会

### 島めぐりコース

#### 【1日目】

午前 御蔵島港に到着 → 民宿の車で宿へ。休憩 → 島内を散策。観光資料館で島の歴史や自然を知る → 昼食はアシタバを使ったランチ

午後 ガイドと合流しドルフィンスイムを満喫 → 夕食は民宿にて島料理を堪能 → 夕食後、星空観察

#### 【2日目】

午前 エコツアーリズムに参加。ガイドの説明を受けながら御蔵島の自然を感じる

午後 昼食を購入し、船に乗り込む → 御蔵島港から出港

# 八丈島

南国情緒豊かな  
花と緑と温泉の島

## 八丈島はどこにあるの？

位置：都心から南に287km

面積：69.11km<sup>2</sup>

### アクセス

航路：竹芝－八丈島（東海汽船）大型客船で約10時間20分

空路：羽田空港－八丈島空港（ANA）飛行機で約55分

HACHIJOJIMA

OGASAWARA Islands.



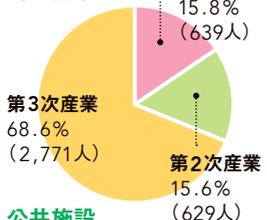
## information

### 島の人々

人口：7,613人

世帯数：3,913世帯

### 島の産業



### 公共施設

役場：1

医療機関：2

小学校：3

中学校：3

高校：1

### 八丈町の特産物

水産生鮮品：ムロアジ、カツオ、トビウオ、キンメダイ

水産加工品：くさや、ムロ節、すり身、干物、燻製  
農林産生鮮品：フェニックス・ロベレニー、レザーファン、ルスカス、キキョウラン、フリージア、アシタバ、レモン、パッションフルーツ、観葉鉢物、トウガラシ

農林産加工品：明日葉麺、明日葉茶、明日葉粉末、焼酎、アイスクリーム、唐辛子加工品、八丈フルーツレモンジャム

工芸品：黄八丈

### 八丈町のシンボル

花：ストレチア

木：フェニックス・ロベレニー（シンノウヤシ）

鳥：アカコッコ

魚：ハルトビ（ハマトビウオ）



花の形から極楽鳥が連想されるストレチア。



## ひょうたん型の島

東京から南に287 km離れている八丈島ですが、羽田空港から飛行機を利用すれば直行便で約55分。アクセスしやすく、伊豆諸島の中では、大島に次いで多くの観光客が訪れています。八丈島の島の形は珍しいひょうたん型をしています。これは南東部を占める三原山(700 m)と北西部を占める八丈富士(854 m)の2つの火山が接合したことにより、火山活動によりもたらされた地形からは温泉が誕生し、島内には7カ所の温泉があります。

また、年平均気温が約18度の温暖な気候を活かし、八丈島では大正時代からハイビスカス、ストレチア、フリージアなどの亜熱帯性植物の栽培が行われています。特に、一年中緑の映えるフェニックス・ロベレニーは、国内有数の産地となっています。

## 八丈島の文化・歴史

八丈島で昔から使われている言葉「八丈語」は大変貴重で、ユネスコが認定した世界消滅危機言語のひとつになっています。この島ことばを守る取組として、学校で島ことばの劇が行われるなどしています。また、黄八丈や島酒と呼ばれる焼酎も、八丈島の歴史・文化を語る上で欠かせないものとしてあげられます。

黄八丈は、本居宣長が書き残した書物に「黄八丈を織り始めたところから八丈島と名が付いた」と記述があることから、島の名前の元になったとされています。島酒は1853(嘉永6)年に流刑になった丹宗庄右衛門が製法を伝えたことから製造が始まり、この功績を讃える島酒の碑が建てられています。

ヘゴシダ



## ふたつの火山が形成する豊かな自然



八丈富士のお鉢巡り。

### 伊豆諸島最高峰の 八丈富士（西山）からの絶景

西にそびえる八丈富士は、標高854mで伊豆諸島最高峰です。裾野が大きいのびた優雅な姿が富士山に似ていることから、名前に「富士」が付けられました。山頂には直径400m、深さ50mの断崖絶壁の火口があり、約1時間かけて一周するお鉢巡りは迫力満点です。生き茂る樹木や池を見下ろしながらのトレッキングを楽しめます。八丈富士7合目には環状道路が整備されているので、登山口まで車で行くことができ、近くには森に囲まれた浅間神社もあります。



八丈富士、山頂  
付近の池。



入場には公認ガイドの同行が必須のヘゴの森遊歩道。

### 豊かな水と生命力に 満ちた森を抱える三原山（東山）

東に位置する三原山は、10万年以上も前に誕生した標高700mの火山です。多くの火山活動と長い年月をかけた侵食により、数多くの谷が複雑に発達し、地下水が得やすいことから、亜熱帯性の植物を含む豊かな森林が形成されています。三原山が育んだ豊富な地下水により、誕生したのが温泉と地熱発電です。温泉も地熱発電も、地熱で温められた地下水を利用しており、八丈島に7カ所ある温泉は、すべて三原山の山腹に分布しています。地熱発電所は、新たな施設の開発が進められています。



#### 裏見ヶ滝

「滝を裏側から見る」という珍しい景観。

### 八丈島の自然を知る、見る、触れる 八丈植物園／八丈ビジターセンター



熱帯・亜熱帯性植物の展示を中心とした公園です。園内の温室には、花木類や観葉植物、果樹類など100種類以上の植物が展示されています。敷地内にある八丈ビジターセンターでは、富士箱根伊豆国立公園に属する八丈島の自然・文化情報を発信しています。



22haもある広大な園内では、植物栽培以外に小さなシカ科の動物「キョン」も飼育されています。

## 国内有数の 亜熱帯性植物の栽培地

八丈島では、フェニックス・ロベレニー(以下、ロベ)などの観葉植物やフリージアなどの花卉が栽培され、東京市場や海外などに出荷しています。ロベは、その優美な姿から観葉植物として人気が高く、成木は鉢物、切葉は生け花用の添え葉として用いられています。

ロベの原産はインドシナで、1921(大正10)年に日本で初めて雌雄一对の株が八丈島に導入されました。島の温暖な気候や土壌がロベの生育に適していたため、積極的に栽培されるようになりましたが、太平洋戦争で栽培は一時中断。戦後、花卉園芸が復興する中で文字通り不死鳥のようによみがえりました。八丈島のロベは、切葉で国内の市場占有率の96%、鉢物では100%を占めています。



島では「ロベ」と呼ばれている  
フェニックス・ロベレニー。



「フリージアまつり」が開催される、八丈富士を望む  
広大なフリージア畑。



アロエの花 (12〜2月)。

ロベが島の産業に貢献したことを感謝する碑。



## 地域活性を目指す 八丈島の畜産

大正から昭和の初期にかけて、八丈島は畜産王国を築いた時期がありました。大手乳業メーカーが島に工場を設立し、また、島内の一部の地区では、全国的な開始よりも10年も早く学校給食に牛乳が導入されました。しかし、本土の安い乳製品が流通するようになると八丈島の畜産は衰退し、酪農家の数も減っていきました。

近年、かつての酪農王国の姿を取り戻すための取組が行われ、アイスクリームや洋菓子などの乳製品を提供するカフェもオープンしました。新たな八丈島名物になりつつあり、これを目当てに島を訪れる人もいます。

乳製品デザートが人気。



八丈島は、一年を通して牛の飼料となる草が豊富。



牛のいる牧歌的な風景は観光資源のひとつ。

## 八丈島の草木で 染め上げた黄八丈

黄八丈は、八丈島で自生、あるいは栽培された草木のみを使って染色する絹織物です。江戸時代には、年貢の代わりに貢納布として幕府に納められていました。一説には、一疋(二反分)の長さが曲尺で八丈(約24m)に織られていたことが「八丈島」の由来とも言われています。また、「恋娘昔八丈」という人形浄瑠璃で「黄八丈」の衣装が採用され、後に歌舞伎として上演されて爆発的な人気を誇ったとも伝えられています。

黄八丈は、孫の代まで色あせないといわれる卓越した染色技術が特徴で、「本場黄八丈」として経済産業省伝統的工芸品、東京都産業労働局東京の伝統工芸品として指定されています。

黄

### 【黄八丈】

黄八丈のメインとなる黄色は、八丈刈安(コブナ草)で染めていきます。染め液に糸を一晚浸し、翌朝に絞って干す作業を10数回繰り返した後、椿と榊の灰汁で媒染(ばいせん)して、深みのある黄色に発色させます。

朱

### 【薫八丈】

黄八丈の中でも、赤みのある茶色(樺色)を主体にしたものを薫八丈と呼びます。薫八丈はマダミの樹皮を原料にしており、樹皮を煮た染液で糸を染め、マダミの灰汁で媒染し発色させます。

黒

### 【黒八丈】

黒八丈の黒色は、椎の木の樹皮を原料にしています。椎の木の樹皮を切って、大釜で煮て、染め液を作ります。黒八丈の場合、染めて、脱水して屋外で干す工程を数十回繰り返します。



無地、縞柄、格子柄など、意匠は極めてシンプル。



伝統の織は手織り作業によるもの。



太陽光が織物に艶やかな光沢をもたらします。



染めていく過程で、鮮やかな発色生まれます。



色は、黄色、樺色、黒色の3色が基調。

## 八丈島は7つの温泉を擁する温泉天国!

八丈島には温泉施設が7カ所あり、そのすべてが坂上の3地区(榎立・中之郷・末吉)にあります。

末吉温泉「みはらしの湯」は、昼間は太平洋と八丈島灯台を見渡すことができ、夜は星空を眺めながら入浴できる絶景自慢の温泉です。

このほかにも、檜造りが心地よい「ふれあいの湯」、秘境の佇まいを見せる「裏見ヶ滝温泉」、180度オーシャンビューの「足湯さらめき」など、趣のある温泉を楽しむことができます。



末吉温泉 みはらしの湯



足湯さらめき



榎立向里(かしたてむかいざと)温泉  
ふれあいの湯



裏見ヶ滝温泉



八丈町の温泉タオル



日本屈指の透明度を誇る八丈島の海で、ダイビングやスノーケリングを満喫。



水と小石によって岩盤が削られた罅穴群(ポットホール)は町の天然記念物。



大坂トンネル展望台 八丈富士や八丈小島を一望できる展望スポット。



大里地区にある陣屋跡の玉石垣。

### 島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル(電動アシスト付きを含む)あり

### 島の窓口



#### 八丈島観光協会

〒100-1401  
東京都八丈島八丈町大賀郷  
2345-1



#### 八丈町産業観光課

〒100-1498  
東京都八丈島八丈町大賀郷  
2551-2

### 島めぐりコース

- ..... 【1日目】 .....
- 午前 八丈島空港に到着 → レンタカーで大坂トンネル展望台へ → 服部屋敷で郷土芸能を見学 → 島内で昼食
- 午後 裏見ヶ滝を散策 → 足湯きらめき → えこ・あぐりまーと(熱帯植物の展示ハウスや農産物直売所がある施設)でひと休み → 黄八丈めゆ工房を見学 → 大里の玉石垣
- ..... 【2日目】 .....
- 午前 八丈富士 or 三原山をトレッキング or 海でスノーケリングを楽しむ → 島内で昼食
- 午後 ふれあいの湯 → 八丈植物公園 → 八丈島歴史民俗資料館 → 地元スーパーで土産購入 → 八丈島空港から出発

# 青ヶ島

二重式火山でできた  
世界でもめずらしい島



## 青ヶ島はどこにあるの？

位置：都心から南に358km

面積：5.96km<sup>2</sup>

## アクセス

航路：竹芝－八丈島（東海汽船）大型客船で約10時間20分 → 八丈島－青ヶ島（伊豆諸島開発）連絡船で約3時間

空路：八丈島空港－青ヶ島ヘリポート（東邦航空）ヘリコプターで約20分

AOGASHIMA

OGASAWARA Islands



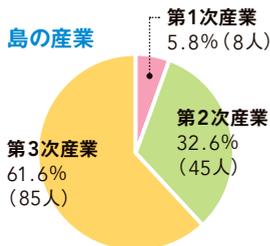
## information

### 島の人々

人口：178人

世帯数：125世帯

### 島の産業



### 公共施設

役場：1

医療機関：1

小学校：1

中学校：1

### 青ヶ島村の特産物

水産生鮮品：トビウオ、キハダ

水産加工品：トビウオ燻製、塩辛

農林産生鮮品：黒毛和牛、サツマイモ、トウガラシ、フェニックス・ロベレニー、オオタニワタリ

農林産加工品：焼酎、ウコン粉末、島だれ

鉱産品・その他：海塩

### 青ヶ島村のシンボル

花：タメトモユリ

木：タブノキ（イヌグス）

鳥：クロバト（カラスバト）

魚：クジラヨ（テンジクイサキ）

「青ヶ島のモーゼ」と呼ばれる  
英雄・佐々木次郎太夫の碑。





## 絶海の孤島

青ヶ島は有人島としては伊豆諸島最南端にある島で、人口は178人。国内で最も人口の少ない地方自治体です。島へのアクセスは、八丈島を経由して船かヘリコプターを利用。どちらも就航する場合は1日1往復のみ。ただ、青ヶ島の波高は、年間平均で約2m、冬季は5〜6m、台風通過時は10m以上にもなります。厳しい海象条件のもと、船便の就航率は約5割にとどまり、ヘリコプターで八丈島を出発しても、青ヶ島上空の視界不良により引き返すこともあります。

アクセス困難な青ヶ島ですが、2014（平成26）年には、アメリカの環境保護NGOの「One Green Planet」が発表した「死ぬまでに見るべき絶景13」に日本で唯一選ばれました。世界でも珍しい二重カルデラ構造や、美しい満点の星空を見ようと、外

国からの観光客も増えています。

## 火山の歴史と還住精神

青ヶ島の人々の生活は、火山とともにありました。1780（安永9）年から発生した火山活動によって、人々は青ヶ島で生活することができなくなり、八丈島へ避難しました。避難生活は半世紀にも及び、その間、何度も帰島を試みるも、船が遭難・難破したり、島に辿り着いても、噴火の影響で水や物資が不足したりするなど問題が山積でした。そんな中、1817（文化14）年に青ヶ島の名主となった佐々木次郎太夫（じやうたう）が、帰島に対する強い意志と熱意を持って困難を克服。この不屈の精神で帰島を果たしたことを「還住」という言葉で表し、その精神は島の人々に受け継がれています。

八丈島 ↔ 青ヶ島  
間を往來する「あお丸」。



島の子どもたちから「プリン」と呼ばれている丸山。



## 二重カルデラと地熱蒸気が噴き出す噴気孔「ひんぎゃ」

青ヶ島には、1785（天明5）年の大噴火で隆起した大小二つの旧火口があり、二重カルデラ構造をしています。カルデラの中央には丸山という内輪山があり、丸山を取り囲む外輪山の北西には島の最高地点である大凸部（標高423m）があります。厳しい自然環境の中、外輪山は台風などの暴風雨を防ぐ役割をしてくれています。



一周約30分程度で散歩できる丸山遊歩道。季節の草花や鳥たちを観察しながら歩くことができます。

「ひんぎゃ」とは、「火の際」が語源となっている青ヶ島の言葉で、火山の地熱蒸気が吹き出す噴気孔のこと。丸山周辺の池之沢では、一年を通じていたるところで地熱蒸気が噴き出しており、電気のない時代には、暖房や料理に利用されていました。



「ひんぎゃ」と呼ばれる水蒸気の噴出する穴が無数に見られる。

## 地熱を利用した青ヶ島の特産物と施設



### 食材を蒸して食べられる地熱窯

地面から噴出する蒸気を利用したワイルドな蒸し釜です。卵やくさや、イモなどを窯に入れるだけでOK。待ち時間にふれあいサウナに入っていれば、あっという間に出来上がりです。



「ひんぎゃの塩」カルシウムが豊富でまろやかな味わいが特徴。



地熱で海水を蒸発させ塩を作る。



株式会社  
青ヶ島製塩事業所  
山田アリスさん

### ひんぎゃの熱を利用したサウナ

サウナ室の温度は約60度。自然の熱であるため、日によって温度・湿度が多少異なります。観光客はもちろん、村民のふれあいの場にもなっています。



### 100%天然の自然海水塩

「ひんぎゃの塩」は、地熱蒸気と海水のみで作られる塩。現在は、島出身の塩職人・山田アリスさんの手によって作られています。海水が結晶化して塩になり、それが商品になるまで約4週間かかります。

## 星空観察三大スポット

地球を形取った青いタイル張りの円形モニュメントが目印の尾山展望台。



写真：井川俊彦



大凸部



尾山展望台



池之沢

青ヶ島は、どこからでも素晴らしい星空を望めますが、特におすすめなのが、島で最も標高が高い「大凸部」（標高423m）、空も海も視界360度の「尾山展望台」（標高400m）、そして二重カルデラ内で風が穏やかな「池之沢」の3スポットです。青ヶ島では10月下旬～4月上旬にかけて、「カノープス」という南天の水平線ギリギリのところを姿を現す、北半球では珍しい星を見ることが出来ます。星空観察を目的にするなら満月を避け、新月前後の4～5日ぐらいに日程を組むのが理想的です。天の川の観察も期待できそうです。

## 青ヶ島に伝わる伝説と神社

青ヶ島 — AOGASHIMA

江戸時代に失恋の腹いせに7人を殺傷して自殺した男性の霊を鎮めるために建立された神社。今では縁結びの神様として信仰を集めています。

### 東台所神社



鮮やかな赤色の社。

### 大里神社

島の総鎮守。1,300個の玉石が敷き詰められた300余段の急崖の石段を上った先には、祭祀が行われていた2カ所の石場があります。「上の石場」には約20社、「下の石場」には約30社の石宮や小さな祠があり、鳥居の正面に鎮座する「上の石場」の主祭神はオオナムチノミコトであることが1965（昭和40）年の民俗調査でわかりました。また、社殿には、1966（昭和41）年頃まで使われていた「でいらほん祭」の仮面（男の鬼面と女面）が安置されています。



二重式外輪山の頂上にある。



ヘリポートの北側にある神社。

### 金毘羅神社

天命の大噴火へ避難した八丈島から帰島する際、船頭が渡海安全を祈願。事故がなかったことから、金比羅大権現を勧請したとされています。

青ヶ島酒造で試飲できる13種類の青酎。



晩秋にサツマイモを収穫 → 麦麴用の大麦を蒔く → 初夏に大麦を収穫 → サツマイモの苗を植えて収穫を繰り返す。

重要な温度管理。麴菌の発酵温度が上がり過ぎると、オオタニワタリの葉っぱが焼けてしまう。



## 幻の焼酎「青酎」を作り続ける杜氏たち

青酎は、元々は妻が夫のために作る家庭のお酒でした。島特産のかんも（サツマイモ）を収穫したあとに、麦麴用の大麦を栽培するなど、青酎造りは畑仕事から始まります。大麦は干したあとに鍋で炒り、麦麴を造る際はオオタニワタリの葉を使いながら温度管理を行います。杜氏によって分量や造り方が異なるので、出来上がった青酎の味はそれぞれに特徴があります。また、ほとんどの工程を人の手でやっているため大量生産ができないことから、幻の焼酎といわれています。

青ヶ島酒造 合資会社  
奥山 晃さん



島の南西部に位置する港。



船を吊り上げるクレーン。



台風通過時は10m以上の波も！

## 青ヶ島の海の玄関口、青ヶ島港（三宝港）

青ヶ島唯一の港。八丈島間を往来する小型定期船が発着し、島民の生活を支えています。2000年度まで日本で唯一、はしけ作業が行われていましたが、断崖絶壁の岩の隙間に港が整備されました。ただ、漁船を停泊させる場所がないため、クレーンで船を吊り上げ陸上に保管しています。



## 青ヶ島年間最大の行事！ 牛祭り

前夜祭の打ち上げ花火から始まる「牛祭り」。



体格・体積があり、均衡の良い和牛を競う品評会。

古くから畜産で栄えてきた青ヶ島では、牛への感謝をこめて、毎年8月10日に「牛祭り」を開催しています。牛の共進会（品評会）が開催されるほか、90kgほどの丸石を持ち上げる力自慢大会や遷住太鼓の演奏、花火の打ち上げ、全員参加の島踊りなどのイベントも実施されます。島外にいた村出身者もこの日に合わせて帰省してくるため、島内は一斉に賑やかになります。